

地域医療支援病院・地域がん診療連携拠点病院・臨床研修指定病院（基幹型）



労働者健康福祉機構 新潟労災病院

〒942-8502 上越市東雲町1-7-12 電話：025(543)3123

FAX：025(544)5210

ホームページ：http://www.niigatah.roufuku.go.jp

健康と福祉の事業と医療連携

病院長 松原要一

梅雨の季節ですが、日本海側に面するご当地“上越”では例年のように時々曇りや雨の日があるものの長く続かず、爽やかな日々が多いこの頃です。また空と海と山の自然の青と緑が美しく、見応えがあります。ところで、暑かったり寒かったり、天気が良いすぎると（高気圧）身体の交感神経系が活発となり、血圧が上がり、白血球分画の顆粒球が増加し、活性酸素が増えて組織障害が生じて急性期の障害（病気など）が発症しやすくなります。一方、曇りや雨の日（低気圧）は副交感神経系が活発で血液循環が良くなり、血圧が下がり、生体の抵抗力を増やすリンパ系が活性化されます。したがって、現在上越は健康的・快適な季節なのです。この間に体調を整えて、これからの夏・秋・冬を元気で過ごしたいものです。

さて、この季節の7月1日は「健康と福祉の事業創設記念日」です。昭和24年2月に九州労災病院が開設されて以来、各地に労災病院が開設されました。そして、昭和32年7月に「労働福祉事業団」が設立されて全国の労災病院が移管されたことから同記念日となり、創設57年に当たります。

なお、同事業団は平成16年4月1日に新たに「独立行政法人労働者健康福祉機構」に移行しました。ちなみに、同機構には現在全国34か所に病院があります。当院は昭和33年5月の開設で創立56年となります。同機構および各労災病院の機能・役割は時代とともにまた地方の状況に応じて大きく変わりつつあります。

新潟労災病院も労災疾患の治療・予防や労働者の健康推進だけでなく、当地区に適応して医療提供をしなければなりません。当地区全体の医療状況に応じて機能・役割を変えていくことが必要です。高度な急性期医療・救急医療・亜急性期医療などが求められています。そのために院内にあっては多職種連携によるチーム医療と、院外では地域内の医療連携（病院・病院、病院・診療所、診療所・診療所、医療・介護、等）の推進・充実を目指さなければなりません。



医療連携をキーワードにすれば、その成否は各医療機関と地区医師会および地方行政との顔の見える協力関係であり、さらに患者さんおよびその家族と地域住民の医療に対する意識と協働にかかっています。しなければならないことが多く、容易ではありませんが、一步一步前進あるのみです。

当院では以前から進めてきた医療情報システム、いわゆる電子カルテを中心として各部門システムを活用した統合医療情報システム（N-HIS）の整備が進み、今年度の平成26年5月19日よりフル稼働を始めました。約7週目に入り順調ではありますが、当初は慣れないこともあって職員は対応に追われ、患者さんや地域住民にはご不便をかけました。しかし、地域医療発展のために必ず通らなければならない過程と考えてお許しください。

既に以前の労災ニュースで医療連携と病院情報システム（第96号:H.22.7.1.医療崩壊は？、第126号:H.25.1.1.上越で三度目の新年、第138号:H.26.1.1.今年の夢）について述べていますが、改めて以下に要約します。

1. 医療とは本来地域医療であり地域で完結することが望ましい。
2. 地域医療には連携が必須である。
3. 連携とは複数の関係者が協力して物事を為すことで、したがって医療連携では患者さん・医療情報・治療方針を共有しなければならない。
4. 上記共有のためには顔の見えるヒューマンネットワークと情報ネットワークが必要である。
5. 情報ネットワークにはICT（Information communication technology）が有用である。
6. 情報とは多くの事実・数値のうち意味のあるものを言い、英語ではInformationとIntelligenceが使われる。前者は自然に（システムとして）集まってくる情報で、後者は手間ひまかけて集める情報と考えて良い。
なお、情報のうち価値あるものが知識で、行動を伴う知識を知恵と言い、医療ではそれに心が伴う知恵が重要で、それは知心と呼べる。
7. 病院に求められる情報はしたがって統合医療情報システム（HIS：Hospital integrated Information System）が有用で、それを活用してインテリジェントホスピタル（Intelligent Hospital）を目指すことが重要である。

（H.26.6.30.院長室の窓から明るい曇り空と山々を眺めながら）

☆☆☆ 医師交代のお知らせ ☆☆☆

転入(7/1)

内科副部長

こしお じゅん
古塩 純

放射線治療科部長

なかの けいた
中野 敬太

転出(6/30)

第3内科部長

関川 宗

第3消化器内科部長

村瀬 貴之

プロフィールについては、次号でお知らせします。

ロコモと変形性膝（ひざ）関節症

第2整形外科部長 田西 信 睦



ロコモティブシンドローム、略してロコモをご存知でしょうか。骨、関節、筋肉などの運動器の機能が衰えて日常生活の自立度が低下し要介護の状態や要介護の危険がある状態を言います。日本は超高齢化社会になりましたが長寿に運動器の耐用年数が追いついておらず天寿を全うする前に歩けなくなり人生最後の数年間は寝たきりやそれに近い状態となる人が増えています。このロコモの代表的な原因疾患の一つが変形性膝関節症です。

変形性膝関節症は簡単にいうと膝関節の軟骨がすり減って痛みを生じ歩行に支障をきたした状態です。原因は主に老化ですが、この他に膝への過重な負荷（肥満、重労働、激しいスポーツなど）、膝関節内の外傷の既往などが原因になります。治療は鎮痛薬の内服や消炎外用薬の使用、ヒアルロン酸製剤の関節内注射、足底板装具療法、膝周囲筋訓練や日常生活指導などの保存的治療をまず行います。肥満の人はダイエットをしないと症状の改善はあまり期待できません。老化を治すことは無理ですので全く痛みをなくすような治療法は存在せず、日常生活や趣味での活動レベルを調節しながら上手につきあっている程度の痛みを改善することを治療の目標にします。

関節症が進行して関節軟骨がすり減りすぎてしまい土台の骨が広い範囲で露出した末期関節症の状態になると非常に強い痛みとなるので手術を考慮します。65歳以上の末期関節症の人には人工膝関節置換術を勧めています。当院でこの手術を受けている人の平均年齢は75歳くらいです。内科的合併症などで手術ができない人もいますが、これについては術前に検査を行い評価します。

当院では人工膝関節置換術をこれまでも積極的に行ってきましたが、高齢者の増加に伴い今まで以上にニーズが高まっているため昨年（H25年）4月に人工関節センター（膝と股関節の人工関節手術を行います）を開設しました。昨年1年間では108例の人工膝関節置換術を行いました。医師をはじめ病棟、手術室、リハビリテーションとも経験を十分積んだスタッフが揃っています。

末期変形性膝関節症に有効な治療法である人工膝関節置換術はロコモ予防の一助になります。膝痛でお困りの高齢の方は整形外科医にご相談下さい。

お電話での予約日時変更について

やむを得ず予約日時を変更される場合、午前中の外来は大変混雑しますので、お電話は午後1時～午後4時にお願いたします。（土曜・日曜・祝日の受付は行っておりません。）また、ご希望の日時にご予約できない場合もございますので、予めご了承をお願いいたします。

皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

新潟労災病院の理念

“働く人の健康を守り、地域の急性期医療に貢献します”



新潟労災病院の基本姿勢

1. 良質で安全な医療を行います。
2. 患者の権利を尊重し、患者中心の医療を行います。
3. 地域の急性期医療を担当する高機能病院として、救急医療を行います。
4. 働く人の健康を守ります。

患者さんの権利

1. 人間としての尊厳をもって医療を受ける権利
2. 当院の提供する良質で安全な医療を受ける権利
3. 自らの健康状況を理解するために必要な情報を、当院から得る権利
4. 当院の提供する医療の内容および予測される結果について説明を受ける権利
5. 他施設の医療者の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
6. 当院から必要な説明を受けたうえで、自分の自由な意思に基づいて選択し、あるいは拒否する権利
7. 診療に関する記録の開示を求める権利
8. プライバシーが保たれる権利
9. 医療費の報告および医療費の公的援助に関する情報を受ける権利

患者さんの責務

1. 自らの健康に関する情報を正確に医療者に伝える責務
 - ・最適な検査や治療を受けるために、自身の健康に関する情報を詳しく正確に提供してください。
2. 診療等に関して自らの意思を明らかにする責務
 - ・医師から十分な説明を受けた上で、診断・治療方針について、自らの意思を明らかにしてください。
3. 診療等に関する指示や助言を守る責務
 - ・診療を円滑に受けるため、医療従事者の指示や助言を守ってください。
4. 病院の規則に従い職員や他者へ迷惑を掛けない責務
 - ・すべての患者さんが、安全で良質な医療を受けられるように配慮するとともに、当院職員が適切な医療を行うのを妨げないよう協力してください。



急募 嘱託理学療法士及び作業療法士を募集しています

人間ドック／がん検診のご案内

New!

☞ これまでがん検診を受けたことのない方へ、

アミノインデックスによるがんリスク判定のおすすめ (次頁コース⑩参照)

1回の採血で、多数のがんの疑いを同時に判定します。(肺・胃・大腸・前立腺・乳・子宮・卵巣がん)

疑いがあれば、次にそのがんに応じて精密検査を受けていただくことになります。肉親にがん患者のいる方に、とくにおすすめします。

New!

☞ 肝胆膵など腹部の超音波検査を単独でお申し込みいただけます。

前立腺・子宮と大動脈とのセットです。(次頁コース⑤)

- ・ 便潜血検査は、大腸がん検診です。内視鏡なら、さらに確実です。(次頁コース④)

1日ドック(税込み) お食事券付

基本コース	がんと生活習慣病の一般コース、男女共通	43,740円
男性コース	基本 + 前立腺がん検査(PSA検査)	45,576円
女性コース	基本 + 乳がん検査(視触診+マンモグラフィ) 乳腺エコー検査(3,672円)を追加できます。	50,004円
	基本 + 子宮がん検査(内診+細胞診+子宮卵巣エコー)	48,060円
	基本 + 乳がん・子宮がん検査 乳腺エコー検査(3,672円)を追加できます。	54,324円

基本コース検査項目 (特定健康診査の項目をすべて含む。■は、がん検診です。)

身体計測	身長 体重 体脂肪 骨格筋量 腹囲 BMI
眼と耳の機能	眼底 眼圧 視力 聴力
生理機能	胸部X線 呼吸機能+肺年齢 血圧 心電図 心拍数
血液 (肝腎機能・血糖・脂質・血球・炎症反応)	総蛋白 アルブミン AST(GOT) ALT(GPT) γ -GT(γ -GTP) ALP 総ビリルビン 尿酸 クレアチニン eGFR 血糖 HbA1c 総コレステロール 中性脂肪 HDL・LDLコレステロール 赤血球数 血色素量 ヘマトクリット値 MCV MCH MCHC 白血球数 白血球分画 血小板数 CRP 血液型(初回)
尿	尿蛋白 尿糖 尿潜血 ウロビリノーゲン PH 比重 沈渣
胃内視鏡と便潜血(2回)	
超音波	肝胆膵腎+前立腺・子宮+大動脈
問診 診察	情報提供と説明、指導

検診コースの①～⑩の検査は、ドックにオプション検査として追加することができます。もちろん、がん検診だけでも、いくつかを組み合わせでの実施も可能です。★はドックの各コースに含まれます。

がん検診コース

円(税込)

	内 容	ドック オプション料金	単独実施料金 (ドックなし)
①甲状腺	ホルモン測定 甲状腺エコー	8,100	
②肺	低線量肺がんCT	9,720	
③胃	胃内視鏡 ★		16,200
④大腸	便潜血(2回) ★		1,620
	大腸内視鏡(69歳まで) ドックと別日で実施	21,600	
⑤肝胆膵臓+前立腺 ・子宮+大動脈	超音波 ★		5,724
⑥前立腺	PSA ★男性		1,836
⑦乳腺	視触診(ドック実施時のみ)	乳腺エコーあり	9,936
	マンモグラフィ撮影 ★女性	乳腺エコーなし	6,264
⑧子宮	内診 子宮頸部細胞診 ★女性 子宮卵巣エコー(子宮体がんの検査を含む)		4,320
⑨腫瘍マーカー	CEA CA19-9 AFP	3,240	
⑩アミノインデックス がんリスクスクリー ニング検査	男性(胃・肺・大腸・前立腺がん)	20,520	
	女性(胃・肺・大腸・乳・子宮がん)		
	女性(乳・子宮がん)	10,260	

生活習慣病予防コース

円(税込)

	内 容	ドック オプション料金	単独実施料金 (ドックなし)
⑪頸動脈の動脈硬化	頸動脈エコー	5,940	
⑫肺年齢	呼吸機能 ★		3,240
⑬骨密度検査	X線	3,780	
⑭内臓脂肪測定検査	腹部CT	3,240	
⑮骨格筋肉量	体成分分析装置(インボディ) ★ (骨密度または内臓脂肪測定とセット実施)		540
⑯睡眠時無呼吸検査	自宅で睡眠時に測定(機器貸出し)	5,400	

その他

円(税込)

	内 容	ドック オプション料金	単独実施料金 (ドックなし)
⑰肝炎検査	HBs抗原 HCV抗体	2,322	
⑱HIV検査	HIV抗体	1,404	

1日ドック・がん検診コース・生活習慣病予防コースは予約制です。

下記①②の方法でご予約下さい。

- ① お電話(ドック健診担当)または医事課0番窓口にてお申し込み下さい。

電話 025-543-3123 内線(1233) 平日 8:30～16:00

- ② 1日ドック・健診各コース申込書(新潟労災病院ホームページ(<http://www.niigatah.rofuku.go.jp/>)よりダウンロード)に必要事項を記入し、新潟労災病院医事課へ郵送または FAX して下さい。

〒942-8502 新潟県上越市東雲町 1-7-12

新潟労災病院医事課ドック検診担当

FAX 025-543-7110



散歩道



兎にも角にも、育児が楽しい。いや、人が育っていく過程がオモシロいのかも知れない。いわゆるイクメンである。

赤ん坊は、生まれてすぐには自分の体の存在すら自覚できていないという。3か月頃から自分に手があることを発見し、さらに3か月经つと足があることを発見するのだそうだ。確かに、指を絡めるように何度も握り合わせて感触を確かめているようであったし、自分の足を見つけた時には、一生懸命、体を折り曲げ足首を掴んだり離したりしていた。

世の中には自らこの育児を手放してしまう大人もいるようだが、なんとモットイナイことだろう。

その我が子は最近、薄目を開けてこちらの動きをよく見ている。そして大きく手足を動かしアピールしながら泣いてくる。「早く来い、抱き上げろ」と。速足で近づき抱き上げると笑顔に変わる。涙は無い。そんな事まで覚えたのかと驚きつつ、まだまだ楽しい日々は続きそうだ。

(M. T)